

# 蕨 広報WARABI 12

広報WARABI

2018/平成30年  
わらび・815

- 平成30年12月1日発行／発行所・蕨市役所
- 11月1日現在人口：75,171人 前月比 +25人  
世帯数：38,941 人口密度：14,710人/km<sup>2</sup>
- 蕨市の面積 5.11km<sup>2</sup>



～今月の特集～

- 地域力で推進  
地域包括ケアシステム

## ～今月の表紙～ 地域交流サロン

北町地区のサロンの和やかな様子（関連7頁）。特集では超高齢社会に求められる地域の支え合いについてお伝えします。



超高齢社会を支える

# 蕨の地域力

85%。最新の市民意識調査で「これからもずっと蕨市に住みたいと思う」と、70歳以上の人が答えた割合です。住み慣れたまちでいつまでも暮らしたいという思いは、多くの市民の願いです。今月の2ページから11ページまでの特集は「地域力で推進 地域包括ケアシステム」。現在市内を進めている取り組みに迫ります。

## 周囲の支えで自立した生活が可能に

高齢になると少しずつできないことが増えていきます。でもそれを補うものがあれば自立した生活が続けられます。「周囲の支え」。まずは一人の女性の日常からその重要性について考えたいと思います。

### 住み慣れた自宅で

### いきいき暮らす93歳女性

暑さが一休みした8月のある日。「こんにちは」と明るい声で今井邦子さん(93歳)は迎

えてくれました。蕨に住んで57年。今は独り暮らしをしています。「蕨が大好きなんです」と話す今井さんですが、自宅を離れたこともありました。7年前、転倒して腰を骨折。入院生活を経て、都内の二人の家に身を寄せる日々でした。家族は同居や施設への入所も考えましたが、本人の意志で再び自宅へ。介護サービスなどを利用し、以前の生活を取り戻していきました。

問：あなたは、これからもずっと蕨市に住みたいと思いますか？

答：住みたいと思う

85%

今年度の市民意識調査の永住意識に関する調査結果から70歳以上を抽出して分析。回答者127人のうち、「住みたいと思う」が108人、「わからない」が16人、「思わない」が1人、無回答が2人。この調査結果から、蕨で暮らし続けたいと考えている人の割合の高さが分かります。

### ▼担当ケアマネジャーから見た今井さんの生活

#### 周囲との関係性が充実した生活に

今井さんは過度に人に頼らず、ご自身でできることは進んで行います。そんな姿を見て友人やご近所の方が「少し大変そうだな」というときには手を貸してくれる関係性が築けています。また、家族が定期的に訪れ、コミュニケーションも取れており、そうした全てがご本人の充実した生活につながっていると思います。

これからもご本人の尊厳を守り、自立した生活を送れるよう、関係者の皆さんと一っしょにサポートをしていきます。



にしのみよみ 西野 清美さん  
第一地域包括支援センター



③



④

ずっとこのまちで  
暮らしたいですね



蕨での暮らしを笑顔で話してくれた今井さん

元来「自分のことは自分で」という性格の今井さん。身の回りのことをできる限り行っているほか、公民館の体操教室や地域のラジオ体操に参加し、元気に汗を流しています。

ただ、かがんだり重い物を持つたりすることは難しく、周囲の手を借りることも。「皆さん親切で有り難いです」と話すように、さまざまな人が少しずつ関わっています。

夕食のお裾分けや買い物を手伝ってくれる友人。適度な距離で見守ってくれるご近所さん。丁寧に掃除をしてくれるヘルパーさん。信頼できる主治医。そして家族。その一つひとつが生活を支え、笑顔の源となっています。そんな今井さんがよく口にするのは「毎日が幸せ」という言葉です。

高齢者が安心して暮らせるまち。今後高齢化が更に進むなか、全ての高齢者が安心して暮らせる体制、「地域包括ケアシステム」の構築が求められています。続く4、5ページではその取り組みに迫ります。

### ▼長女・<sup>おぐろ</sup>小黒さんから見た今井さんの生活

#### 感謝しています 皆さんの温かさ

母は蕨をととても気に入っています。骨折したときには、自宅での生活はもう厳しいかと思いましたが、ご近所や地域、介護関係の皆さんの温かい支援のおかげで以前のような生活を維持できています。その充実した暮らしぶりが母の表情に出ている、定期的に訪れる私たち家族を安心させてくれます。ほんとうに有り難いですね。これからもできる限りこの生活が続くよう願っています。



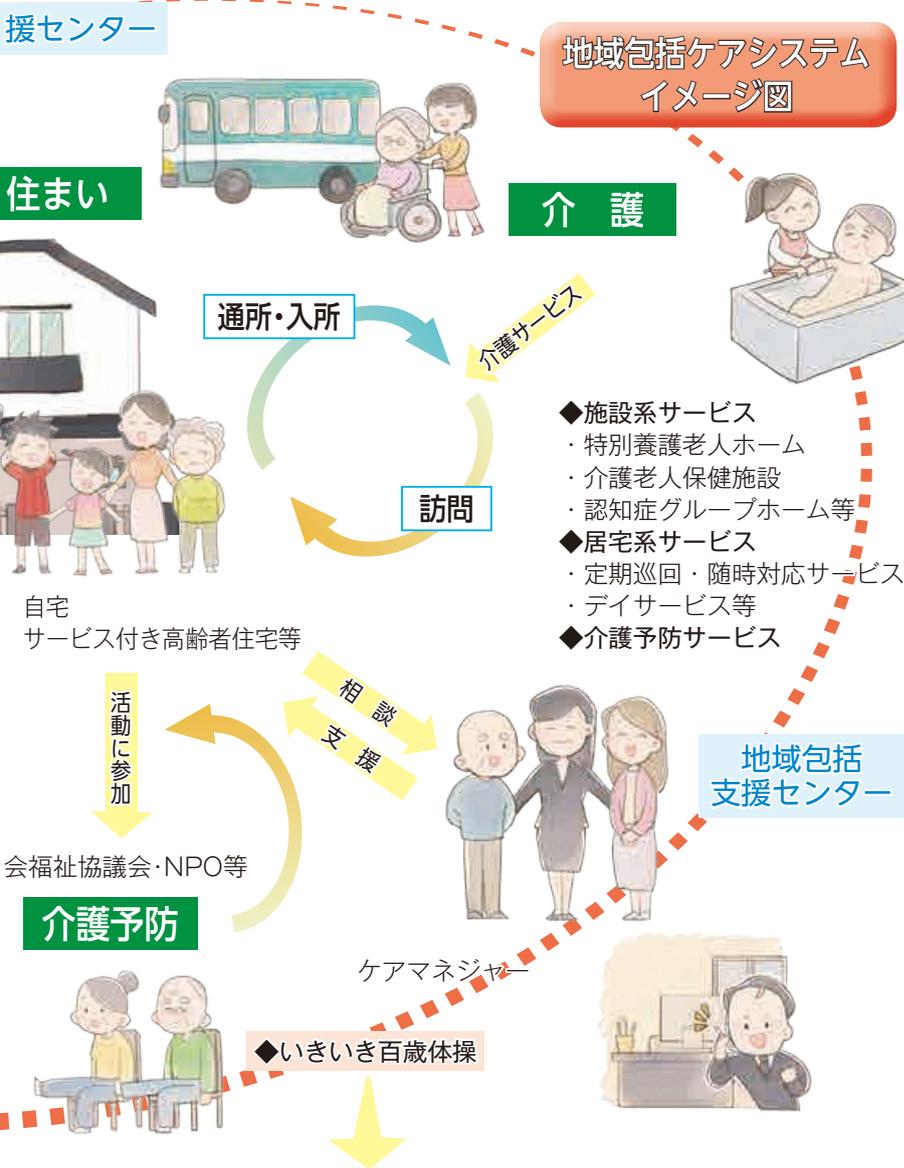
(写真左上から時計回り)

①毎日参加している地域のラジオ体操 ②40年続けている公民館の体操教室 ③民生委員の高齢者訪問 ④⑤週2回依頼している介護ヘルパーさん ⑥万一に備え緊急時の通報装置(福祉連絡システム)を設置 こうした周囲の皆さんの力が今井さんの充実した暮らしを支えます



# 安心した暮らしの実現へ 地域包括ケアシステム

高齢者が住み慣れた地域で自立した日常生活を営むためには、医療や介護、住まい、介護予防、生活支援が一体として提供される「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取り組みが重要です。ここ4、5年ではその概要についてお伝えします。



## 蕨市の高齢化率の将来推計



2018年の数字は4月現在。2025年、2040年の数字は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2018年3月推計)から引用

## 地域包括ケアシステムとは

高齢者が要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで送れるよう、一体的なサービスを提供するしくみ。各自治体が3年ごとに作成している「介護保険事業計画」に従い、計画的に構築が進められています。その形は全国一律ではなく、それぞれの地域の実情に応じて、つくられていきます。

高齢化が更に進展  
医療や介護の需要が増加

日本全体、そして蕨市においても高齢化は更に進んでいきます。2025年には団塊の世代の全てが75歳以上に、2040年には団塊ジュニア世代が65歳以上となり、医療や介護の需要がいつそう見込まれ、従来のしくみだけでは高齢者の生活を支えていくのが難しくなります。一方、85%という数字(2頁参照)が物語るように、蕨に住み続けたいという人が大多数です。だからこそ、医療や介護の基盤整備だけでなく、地域資源を効果的に活用しながら医療・介護・住まい・介護予防・生活支援を包括的に提供する地域包括ケアシステム(上イメーグ参照)を構築していくことが重要となります。

## モデル事業で推進

## 「介護予防」と「生活支援」

市ではこれまで医療と介護の連携や認知症施策などの取り組みを進めてきたほか、地

## 介護予防モデル事業

### <いきいき百歳体操> 住民運営による介護予防教室



現在市内19か所で開催し、500人以上が参加しています。体操を通じて筋力や体力の向上につなげているほか、集いの場としても好評です。教室を支援する計163人のサポーター(平均年齢69.6歳)にとっても、やりがいを抱ける場となっており、市では今後も養成講座を開催するなど取り組みを進めます。

現在市内19か所で開催し、500人以上が参加しています。体操を通じて筋力や体力の向上につなげているほか、集いの場としても好評です。





生活支援  
担い手  
養成講座



熱心に耳を傾ける受講生の皆さん

## 地域で広がる 支え合いの輪

高齢者を地域ぐるみで支えるしくみづくり。  
ここからは市民の皆さんが主体となり、現在進  
めている取り組みについて紹介します。

日常生活の困りごと。それ  
を自分で解決できればいいの  
ですが、高齢者の場合、解決  
できないこともあります。更  
には公的サービスでも補えな  
いと、ちょっとした困りごと  
が大きな困りごとに…。

高齢者が増え、核家族化が  
進む今、そうした困りごとを  
地域で解決できるしくみづく  
りが求められています。ただ、

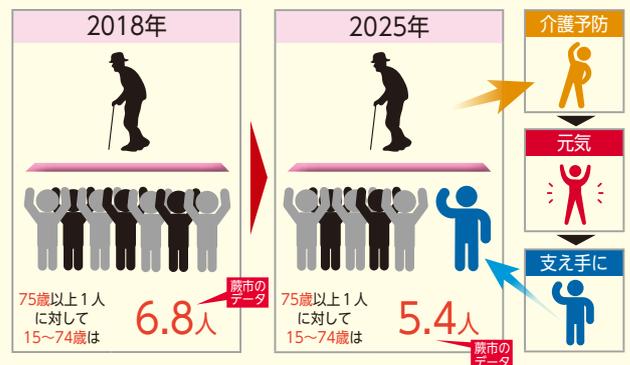
支える側の裾野を広げる講座を開催

募集します！  
生活支援担い手養成講座

2月18日・26日・3月  
4日・11日 全4回  
午後1時半～4時 東  
公民館 先着30人 申  
し込み = 5日から介護  
保険室(☎433・7756)

これは特別なことを始めるの  
ではなく、日頃の友人や近所  
の人との「お互いさま」の関係

7年後の2025年に向けて  
「支え手の人材育成」+「高齢者の介護予防」



2025年には75歳以上1人に対して、15歳から74歳までが5.4人となり、高齢者が増加する一方で支え手側の人口の減少が指摘されています。そのため今後は介護予防などの推進により、高齢者の健康維持と支え手となる人材の育成が求められています。

また、元気な高齢者が支え手の役割を担うことで自らの介護予防につながることも期待されています。



各地で行われている高齢者が集うサロン(けやき荘)

## 地域交流 サロン

を延長し、しくみとして構築していくもの。その一環で3年前から行っているのが、「生活支援担い手養成講座」です。

### 地域の課題を理解 活動を開始した受講生も

8月から9月にかけて全5回行われた今年の講座。市の現状や認知症に関する座学、福祉用具の体験など内容は多岐にわたり、受講生13人から

は「蕨の実情が理解できた」、「できることから始めたい」との声が上がりました。

「毎回皆さんの熱意を感じます」と、講座の企画・運営を行った生活支援コーディネーターの服部洋孝さん。その言葉どおり、受講生の中には既に行動を始めた人もいます。地域の課題を理解し、行動に移す。支え合いの輪が着実に広がっています。

## 住民自らの手で運営する交流サロン

明るい声が響く老人福祉センターけやき荘の一室。ゲームをしたりいっしょに歌った

りと、いきいきとした高齢者の姿が見られるのは、蕨市社会福祉協議会(以下社協)塚越

### Interview 地域交流サロン運営者



### 地域の力を合わせ 更に住みよい蕨を

うえの しゅんいち  
上野 寿一さん  
塚越5丁目・79歳

**毎** 回約10人でサロンを運営しています。当初は戸惑いもありましたが、今では参加者の皆さんとともに楽しんでいます。同じ時間を過ごすことで、顔の見える関係を築くことができ、支え合いの土壌が育まれているのではないのでしょうか。

**蕨** は古くからコミュニティが豊かなまちです。これからも皆さんと力を合わせていきたいですね。

### 地域に着実に浸透 おおぜいの参加者が来場

支部の「地域交流サロン」です。参加者の一人は「いつも楽しみにしているの」と話します。

現在4か所で行われているサロンがスタートしたのは昨年3月。その前年、市内各区で地域の支え合いについて考える住民座談会を行ったところ、「気軽に集える場」という声が上がリ、皆さんの手

### Interview 生活支援担い手養成講座受講生

### 支え合いの重要性を再認識

講座を受け、あらためて地域の支え合いの重要性を認識しました。有償ボランティア(8、9名)に興味を持ち、早速登録しました。これからもソフト・ハードの両面で取り組みを進め、高齢者にとって更に住みやすいまちになるといいですね。



おもと みか  
根本 美香さん  
中央3丁目・45歳



商品を選ぶ依頼会員の宮川さん(左)と提供会員の五十嵐さん(右)

で立ち上げました。当初は集客や運営に不安もありましたが、今ではすっかり浸透し、毎回20人から30人が集います。こうした活動にはさまざまな効果があります。情報交換や相談ごとができる場の確保、孤立や引きこもりの防止、地域のつながりの再構築、支え合いのきっかけづくりなど。

「3枚入りのブリはあるかしら」、「ここにあるわ。856円ね」。1週間分の食材を購入するため、メモを見ながら買い物をしているのは錦町に住む宮川ツル子さん(73歳)と有償ボランティアの五十嵐文子さん(67歳)。二人は、昨年8月から社協で始まった「有償ボランティアサービスマodel事業」の利用者第一号です。宮川さんは、3年ほど前から

夫の服を整理しなければいけないが捨てるのは...と、相談したところ、運営者や社協職員が協力し、各サロンで配ることに。喜んで手に取る参加者の姿に、「思い出の品が役立つてよかった」と、女性は安堵の表情を浮かべたそうです。人と人とのつながりから生まれる心温まる交流。そこから地域の絆が深まります。地域の課題に対して、市民の皆さんが主体的に取り組む活動が加速しています。

## 有償ボランティアが生活をサポート

「3枚入りのブリはあるかしら」、「ここにあるわ。856円ね」。1週間分の食材を購入するため、メモを見ながら買い物をしているのは錦町に住む宮川ツル子さん(73歳)と有償ボランティアの五十嵐文子さん(67歳)。二人は、昨年8月から社協で始まった「有償ボランティアサービスマodel事業」の利用者第一号です。宮川さんは、3年ほど前から

だんだん視力が落ちていき、家事はひととおりできるものの、買い物の際に金額や産地などの表示が見えず困っていました。そんなときに出合ったのがこの制度です。

**住民ぐるみで支援 互いにつながる地域参加**

有償ボランティアは依頼会員に30分400円、1時間800円で掃除や洗濯、買い物

### Interview 地域交流サロン参加者

#### サロン参加で 気分が明るく

北町地区のサロンに1年くらい通っています。皆さんとたわいのない話をしたり、いっしょにゲームをしたりすると、楽しくて気分が明るくなります。地域にこういった場があるのはいいことですね。



滝澤 尚さん  
北町1丁目・83歳



屋外で開催した北町支部のサロン

### 気軽にどうぞ！ 集いの場

※開催日はいずれも原則です



問い合わせ＝藤市社会福祉協議会  
(☎443・6051)

#### ●おしゃべりやお茶飲み

▼塚越支部ふれあいサロン  
毎月第2・4月曜日 午後1時半～3時 けやき荘

▼北町支部来た!? コミサロン  
毎月第2・4木曜日 午後1時半～3時 北町コミュニティ・センター

▼中央支部仲よしサロン  
毎月第4水曜日 午後1時半～3時 旧旭町公民館

▼錦町支部りんごサロン  
毎月第2・4水曜日 午後1時半～3時 松原会館

▼喫茶ひだまり 毎月第3・4水曜日 午後1時半～3時 交流プラザさくら

▼西町町会サロン 毎月第3土曜日 午後1時半～3時 西町町会会館

●介護者の集い・相談

▼介護交流サロン 毎月第3水曜日 午後1時半～3時半 くるる

▼介護おしゃべりサロン 毎月第4木曜日 午後1時半～



Interview  
生活支援コーディネーター

有償とすることで  
使いやすい制度に

はっとり ひろたか  
服部 洋孝さん  
蕨市社会福祉協議会



有償  
ボランティア

— 昨年が高齢者を取り巻く地域課題を把握するために行った住民座談会において、日常のちょっとした困りごとをお手伝いしてくれるサービスを求める声が多く上がりました。これを受け、蕨市社会福祉協議会では、モデル事業として有償ボランティアサービスを立ち上げました。ボランティアというと、無償での活動をイメージするかと思いますが、無償だと依頼者も遠慮しがちな

— 一方で、提供会員にとってもボランティア活動を通じて自身の介護予防や地域参加につながっています。買い物を終え、宮川さんが「一人では難しかった買い物もあなたがいてくれて楽しいものになったわ」と、話しかけると「私も生活に張り合います。そこで、あえて有償とすることで依頼者、提供者双方にとって使いやすい制度になるのではと考えました。来はこのような地域の支え合いによるサービスの支え合いによる支援を介護保険のサービスで置き換え、対応している現状があったかと思えます。今後は住民どうしだからこそできる支え合い活動を広げていくことで、介護予防や地域参加につなげていただきたいと思いますね。

など日常生活のちょっとした困りごとをサポートします。一方、提供会員にとってもボランティア活動を通じて自身の介護予防や地域参加につながっています。買い物を終え、宮川さんが「一人では難しかった買い物もあなたがいてくれて楽しいものになったわ」と、話しかけると「私も生活に張り合います。



買い物を終えてにっこり

が出てくるのよ。ありがとうね」と、五十嵐さん。公的サービスに頼るばかりでなく、地域でできることは地域で支え合う姿がそこにはありました。

～募集!!有償ボランティアの依頼・提供会員～

利用は事前に説明会に参加し、登録が必要です。  
資格／依頼会員＝65歳以上の支援が必要な市民  
提供会員＝20歳以上の人  
サービス内容＝買い物代行、外出支援、掃除など  
問い合わせ＝蕨市社会福祉協議会(☎443・6051)



※受けられるサービスの内容については応相談



オレンジカフェ・クローバー

ところ・問い合わせ	とき
イリーゼ戸田 錦町4-7-4 ☎430・0321	月1回 木曜日 午後1時半～3時半
みんなの家・蔵2 錦町6-9-29 ☎430・1515	月1回 火曜日 午後1時半～3時
ライフコミュニケーション蕨 北町2-6-12 ☎229・1261	月1回 木曜日 午後1時半～3時半
グリーンライフ蕨 塚越1-11-4 ☎430・0110	月1回 月曜日 午後2時～3時半
リハビリホームまどか蕨 南町2-11-10 ☎434・7300	月1回 火曜日 午後1時半～2時半

●オレンジカフェクローバー(認知症の人や家族・地域の集い) ※詳細は各施設へ

3時 東公民館  
▼ホッとおしゃべりサロン  
偶数月は第1木曜日・奇数月は第1土曜日 午後1時半～3時半 中央公民館

フリーアナウンサー  
蕨市PR大使

# 町 亞聖さん

高齢になっても誰もが住みやすいまちにするにはどうすればいいのか。両親の介護を経験しフリーアナウンサーとして医療と介護を生涯のテーマに取材を続ける町さんに話を伺いました。



## 「二人ひとりの意識を変えて 支え合えるまちに」

も膜下出血で倒れ、車椅子の生活になった母の介護に直面した1990年代は、介護保険もなく家族が介護をするのがあたりまえの時代。現在のように地域包括支援センターもなく、相談できる窓口がありませんでした。私もまだ高校3年生…。

桜並木での花見など。また近所のスーパードにもよく買い物に行きました。街はバリアフリーではありませんでしたが、だからこそ道行く人の優しい一言や差し伸べられる手の有り難さを感じたものです。

まずは私たち一人ひとりの意識を変える必要があります。母と過ごす中で私は「できないことではなく、できることを数える」という発想の転換をしました。右半身麻痺と言語障害がありました。動かせる左手でできる家事、お茶碗洗いや洗濯物を畳むなどなんでもやってもらいました。母のできることが増えていくにつれて、家族にも余裕が生まれました。

先日、遠距離介護をしている女性からこんな話を聴きました。介護は専門職に任せて「愛する」という家族にしかできないことをしてくださいと言われて救われたと。母が母のように若くして病気で障害を負ったり、年を重ねれば認知症になったりする可能性があります。蕨では市民の皆さんの主体的な取り組みが進んでいるので、これからも地域ぐるみでお互いに行えることを積み重ねながら、支え合えるまちになっ

### Profile まち あせいさん 町 亞聖さん

日本テレビでアナウンサーとして活躍。その後報道記者などを経て、フリーへ転身。両親の介護生活をつづった「十年介護」（小学館文庫）は大きな反響を呼ぶ。現在はテレビやラジオなどでMCを務めるとともに、自身の経験から医療と介護を生涯のテーマに取材を続ける。2014年に蕨市PR大使に就任

## Interview 市民の皆さん ～超高齢社会における地域の支え合い～



うべ ひでお  
馬場 英男さん  
南町2丁目・74歳

### 勇気を出して地域活動を

昨年から介護予防体操のサポーターをしており、皆さんの元気な姿を目にするとやりがいを感じますね。これからは市民一人ひとりの力が重要になると思います。自分にできることから始めましょう。



つじ ゆみこ  
辻 由美子さん  
錦町1丁目・49歳

### 楽しみ増やし健康長寿に

看護師の資格を生かして地域で活動中です。生活習慣を工夫し医療や介護を上手に使えば、元気に過ごせる人も多いと思います。健康長寿の秘訣である「楽しみ」を抱ける場が更に増えればいいですね。



みんなの笑顔が

輝くまち

### 地域力を生かし誰もが住みよい蔵に

気温が下がり、冬の訪れを間近に感じた11月のある朝。自宅近くの道路をほうきで掃く今井邦子さんの姿がありました。「皆さんにいつも親切にしてくださいているので、せめてここを通る人が気持ちよいように」と、にっこり。

#### 支え、支えられる 輝き放つそれぞれの個性

この取材を通じてあらためて実感したのは、支え合いにおいて、「支える側」と「支えられる側」の垣根がないということでした。今井さんと周囲の皆さん、サロン参加者と運営者、有償ボランティア依頼者と提供者など、お互いが信頼できる存在として「支え、支えられる」という双方の関係構築をしています。

高齢になっても、認知症になっても、障害があっても、その人にできることはたくさんあります。一人ひとりの個性が集い、輝きを放つことが

地域の支え合いにつながっているのです。そして、そうした支え合いの輪を広げていくことで誰もが安心して暮らせるまちになるはずです。

#### 市民と行政が一体 協働のまちづくりを推進

私たちのまち蔵には、豊かなコミュニティがあり、まちを愛する人がおおぜいいます。そして、地域の中には支え合いがあふれています。

超高齢社会、人口減少社会といったこれまでにない困難な課題に私たちは直面していますが、こうした時代だからこそ、住民一人ひとりが担う役割は大きくなるとともに、住民と行政が一体となった協働のまちづくりの推進が求められています。

今こそ蔵の地域力を結集し、「このまちに住んでよかった」と、誰もが思えるまちにしていきましょう。未来に向けて皆さんの力が必要です。



# レポート そこが知りたい <133>

皆さんの声を市政に生かします

## 市民意識調査の結果まとまる

蕨の「いま」を  
伝えます!!



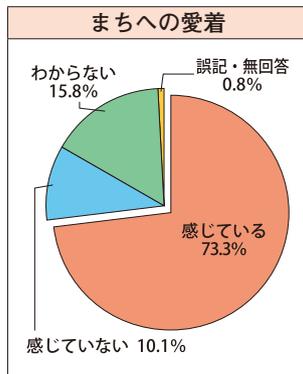
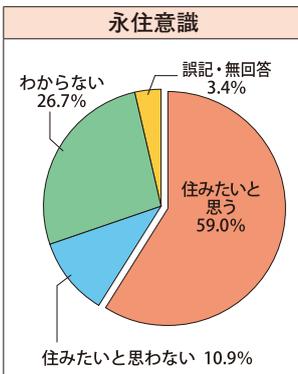
市では、まちづくりの理念「みんなで未来の蕨を創る」に基づき、市民と行政が一体となったまちづくりを推進するため、市民意識調査を毎年実施しています。この度その結果がまとまりましたので、主な調査項目について紹介します。

暮らしやすく便利なまち  
7割以上が愛着を感じる

皆さんのご意見を市政に生かそうと、毎年実施している市民意識調査。今回の調査では、無作為に抽出した市内在住の18歳以上の男女1000人を対象に調査票を送付し、回収率は過去20年で最も高い



誰もが笑顔あふれるまちへ



平成30年度市民意識調査	
調査期間	5月18日～6月8日
調査内容	◎まちへの愛着 ◎永住意識 ◎まちづくり（防災、子育て、高齢期に大切なこと、まちのにぎわいについてなど11分野） ◎重点施策 など全28項目
対象	市内在住の18歳以上の男女1,000人（無作為抽出）
回収率	50.5%（505人）

50・5%でした（右囲み）。調査項目は全28項目。そのうち主な結果を紹介します。初めに、「まちへの愛着」については「感じている」と答えた人が73・3%と、7割を超える高水準となりました（上グラフ）。その理由としては、「買い物など生活に便利だから」が1位でした。また、「永住意識」については、これからも「住みたいと思う」と答えた人が59%となりました。いずれの結果からも、多くの皆さんがまちに愛着と満足を感じていることがうかがえます。

## 情報ダイヤル

掲載は無料。申し込みは秘書広報課(☎433・7703)へ



● 仲間になりませんか

▼楊名時（太極拳） 土曜日 午後2時半 蕨駅東口駅前ラ・セ1ヌビル 月4500円（浦島・☎224・5915）

▼ねこのみみ（市民交流・談話） 月1回 正午 市内 5000円

▲北田・☎432・8501

▼北町囲碁クラブ 土曜日 午後1時 北町公民館 年1200円（小林・☎431・3180）

▼蕨北町サッカー 土・日曜日・祝日 北小学校 月15000円

2000円（未就学児は年間10000円）年中・小学生 活動時間要確認（小泉・☎090・4948・5936）

▼蕨塚越サッカースポーツ少年団 土・日曜日・祝日 東小学校 塚越小学校 月25000円

年中・小学生（武藤・☎080・5063・6222）

▼第2和楽備ストレッチ・脳トレ＆ラジオ体操の会 1月7日以降新たに月・水曜日の8時半から城址公園で実施。早起きが苦手な人も気軽に参加を（平田・☎080・4179・6907）



蕨市のCMが準グランプリ！  
～現在NACK5で放送中～



FM NACK5 開局30周年特別企画として行われた「埼玉あなたの街自慢コンテスト」。各自治体のCM 70本の中から蕨市の作品が準グランプリとなりました。CMは1月まで同局で1日1回放送されます。市内在住親子の協力の下、1分間に蕨の特徴やユーモアを満載したクイズ形式の作品です。ぜひお聴きください。

※放送時間は日によって異なります。なお、同コンテストの公式ページからもCMを聴くことができます(右記QRコード)



出演者の親子に聞きました

(左・大人回答者役)  
寺島 智美さん

(右・子ども回答者役)  
陽菜さん  
北町4丁目



「収録はとても緊張しました。CMを聴いて多くの人に蕨を知ってほしいです」と、陽菜さん。「地元のPRに一役買えてうれしいです。私自身、蕨の良さをあらためて見つめ直すきっかけになりました」と、智美さん。

今後の市政の重点施策  
**36項目**  
上位の結果

重要度	満足度
1位 防犯対策	1位 消防・救急体制
2位 防災対策	2位 子育て支援
3位 消防・救急体制	3位 健康づくりの推進
4位 交通安全対策	4位 防災対策
5位 市立病院の充実	5位 公園緑地の整備、身近な緑と花の充実



▲犯罪抑止効果が期待できる防犯カメラ。町会や警察と連携し、通学路などの道路上を中心に市内全域で140基整備



▲更なる救命率の向上へ、6月に市内の24時間営業のコンビニエンスストア・ガソリンスタンドにAEDを設置

市民意識調査に関する問い合わせ = 政策企画室 (☎433・7698)

子育て支援の推進により  
満足度が過去最高の数字

続いては、今後の市政の重点施策36項目についてお聴きした結果です(上囲み)。

「重要度」は、1位が「防犯対策」、2位が「防災対策」、3位が「消防・救急体制」と、昨年引き続き、安全安心に関する分野への関心が上位を占めました。

「満足度」は、1位が「消防・救急体制」、2位が「子育て支援」、3位が「健康づくりの推進」でした。そのうち子育てに関しては認可保育園の増設をはじめ、子育て支援を積

極的に進めてきたこともあり、「子育てしやすいまちだと思おう」、「どちらかといえばそう思う」と答えた人が平成14年に調査項目となって以降、最高の52.5%という結果になりました。また、健康づくりに関しては昨年8位からの上昇となり、健康長寿埼玉モデル事業などの取り組みを市民の皆さんといっしょに進めてきた表れともいえるでしょう。

市ではこの結果を市政運営の参考にし、各施策の充実を図っていきます。なお、結果は市役所市民活動推進室や各公民館、図書館、市ホームページで御覧いただけます。

▼シユガークラブ(卓球) 水曜日 午後1時 市民体育館 月1000円(別途入会金1000円) 初心者歓迎△富山・☎445・7060▽

●参加しませんか

▼子どもミュージカルラビコ新公演 Let's get going! MUSICAL II 1月20日 1回目 午後1時 2回目 午後3時半 無料△永沼・☎452・8143▽

▼カンダンズパーティー 18日 午後1時 くるる 600円△坂内・☎443・8968▽

▼江戸あるき「神田上水源の妙正寺池・善福寺池と周辺の有名寺社をめぐる」6日 午前9時 蕨駅改札前 700円△富山・☎090・2764・1342▽

▼「日帰り倶楽部参加者説明会」日時等は電話確認△岩本・☎090・3431・4295▽

▼小西児童尺八講習会 18日 午後7時 市民会館 無料 要予約△小西・☎080・3391・9003▽

▼子育てサロンちぎんえっぐ 22日 午前10時 メリーポピンズ 蕨北町ルーム 親子(1歳〜5歳) 無料△高橋・☎430・7836▽

●ご相談ください

▼蕨断酒会(酒害相談) 4日 中央公民館 14日 南公民館 20日 旭町公民館 午後7時 語り合いの場△高橋・☎090・2302・8510▽



35回目となった今年は天候にも恵まれ、沿道にはたくさんの人が訪れました。ミス織姫の中村優花さん(左写真)と宿場小町の張替華さん(下写真左)、村上幸輝さん(下写真右)を中心にパレードが行われ、中山道は江戸時代にタイムスリップしたかのようなでした



# 織姫道中 大行列

中仙道武州麻生宿場まつり





## 中 山道の宿場町として栄えた蕨宿。その歴史を

今に伝えているのが毎年11月3日に開催される宿場まつりです。中山道界隈に住む皆さんの「蕨の歴史や文化を後世につなげたい」との思いから始まり、市の大きな祭りとして発展してきました。

メインイベントは織姫道中大行列。20歳の女性の中から選ばれたミス織姫と宿場小町が祭りを華やかに彩ります。

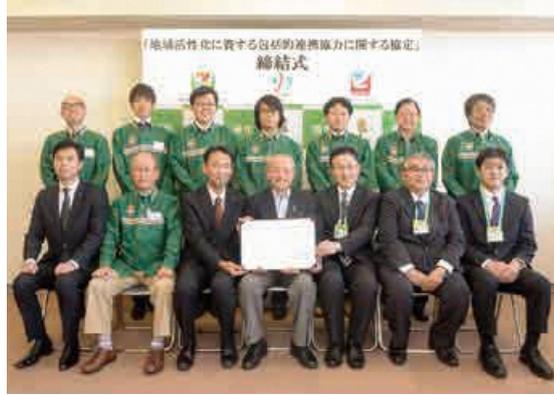
午後1時半、災害協定を結ぶ静岡県湖西市の大太鼓を先頭に甲冑や新選組の羽織を着た人々が練り歩き、鉄砲隊が合図とともに迫力ある発砲音を響かせます。織姫や小町が通ると沿道からは歓声が上がります、パレードを終えた織姫も「皆さんからの声が温かく、うれしかったです」とにっこり。

こうして市民参加の歴史再現は郷土愛を育み、中山道には笑顔が広がっていました。



## 地域活性化に向け新協定

10月25日、株式会社セブン-イレブン・ジャパン及び株式会社イトーヨーカ堂と包括連携協定を締結しました。子育てや防災など8つの分野で連携を進めていくもので、当面の取り組みとして、イトーヨーカドー錦町店内に蕨ブランドなど蕨の魅力や情報を発信するブースが設置されました。



# まちの話題

ここでは10月下旬から11月中旬までの話題を紹介します  
 ハビデオマークがついている話題はCATVで放映します



## 地域に広がるハロウィン

10月28日、中央地区で「ハロウィンワールド in WARABI」と「親子でハロウィンを楽しもう」が開かれました。参加した延べ3,000人は、魔女やお化けなど思い思いのかっこうに仮装してまちをパレードし、地域の皆さんにお菓子をもらいながら触れ合いを楽しんでいました。

## 「けやき文化賞」に高野氏

市の文化功労者に贈られる「けやき文化賞」の表彰式が、11月3日にくるんで開かれました。受賞者の高野眞由美さん(南町在住)は音楽家・ピアニストとして下蕨公民館を中心に、長年音楽を広める活動を行っているほか、蕨市音楽家協会の設立に携わるなど市民文化の向上に尽力されています。



## 「ハローわらび」12月の番組表

市からのお知らせ・地域の話などをお送りします

放送時間は、毎日午前9時・正午・午後3時・6時・9時からそれぞれ45分間です。

	11/30(金)~12/6(木)	7(金)~13(木)	14(金)~20(木)	21(金)~27(木)	28(金)~1/3(木)
00	タウンタウン 北町地区生涯学習 フェスティバル 蕨市環境フォーラム	タウンタウン 金婚祝式 園芸品評会	タウンタウン 第8回アウトメディア 推進大会 西小の給食センター見学会	タウンタウン オリンピックパラリンピック 競技体験会in二中 塚越児童館のクリスマス会	タウンタウン むしばんコンサート 蕨市民ロードレース大会
10	蕨市政なう! みんなにあたたかく だれもが住みやすい まちづくり	市政ガイド 市民意識調査 結果がまとまる	音楽が響き渡るまち わらびでしか聴けない 音がある~わら音 第4回蕨市民音楽祭	蕨市政なう! 2018 映像で振り返る 蕨市政この1年	特集・ウィークリープラス 高齢者クラブ芸能大会
20	採れたてスポット 地域の話が 盛りだくさん	市長の“ほっと”訪問 ジュエリー工房 パラ貴金属工芸 (南町1丁目)		採れたてスポット 年末年始のお知らせほか	特集・ウィークリープラス インタビュー ~2019年の抱負~
30	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報

「ハローわらび」DVD/放送終了後から貸し出します 無料 詳細・貸し出し場所=秘書広報課 (☎433・7703)



### 改正民法施行後も 蕨の成年式は 20歳を対象に開催へ

市長 頼高 英雄

蕨市は成人式発祥の地として知られていますが、民法改正により、成年年齢が18歳に引き下げられることになり、成人式の対象年齢をどうするか関心が寄せられています。そうした中、発祥の地として、なるべく早く、方針を示すことが必要と考え、先日、記者会見を行い、蕨市の成年式は、改正民法が施行される2022年以降も、20歳を対象に開

催することを表明させていただきました。その主な理由は、①昭和21年に全国に先駆けて開催された蕨の成年式の原点は、単に法律上の成年をお祝いするだけでなく、「次代を担う青年達をまちをあげて激励する」ことにあり、先人達の思いを引き継いでいく、②民法改正後も18歳で全ての権利が認められるわけではなく、引き続き20歳は重要な節目である、③18歳の多くは高校3年生で、受験勉強や就職活動など大切な時期であり、式典等を行うことには教育的な配慮が必要である、ことです。今後もし成人式発祥の地としての誇りを胸に、まちづくりを進めていきたいと思えます。

#### 市民と市長の面会日

面会日は毎月第1木曜日。今月は6日です。ただし、1月は10日です。時間は午後1時～5時を予定しています。ご希望のかたは秘書広報課（☎433・7701）へご連絡を。



#### 街中を音楽が包む2日間

11月10日と11日、「第4回蕨市民音楽祭」が開催されました。西口駅前ロータリーでのスティールパンバンドによる演奏を皮切りにクラシックやジャズ、吹奏楽、市民参加型の紅白歌合戦のほか、各種イベントを15会場・23ステージで実施。街中が音楽に包まれ、2万9,000人の笑顔が広がりました。

ゆうな  
結菜ちゃん (5歳4か月)

あやと  
綾斗ちゃん (0歳11か月)

いずもと まさる  
出本 優さん

香さんの 長女・長男

中央6丁目



#### わが家のアイドル

「明るくしつかり者な姉・結菜(右)と、おっとりした性格の弟・綾斗(左)はいつも仲よし。二人でハイハイ競争などをして遊んでいる様子を、ほほえましく眺めています。私家事で忙しいときは、結菜がちゃんと綾斗のめんどうを見てくれるので大助かり。二人とも、周りの人をたいせつにできる子になって、たくさんお友達を作ってほしいですね」と、母親の香さん。

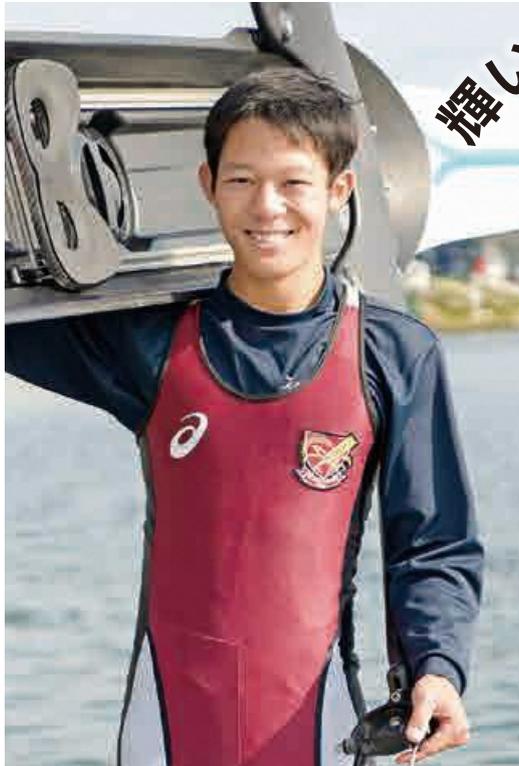


#### アウトメディア 推進大会

市では、子どもたちがゲームやスマートフォンなどと上手につきあうための取り組みを進めています。11月17日には市民会館で「アウトメディア推進大会」を開催。参加者145人は、中央小児童の発表や心理療法士による講演に耳を傾けていました。







ボートを持ち笑顔を見せる伊藤さん

輝いています

福井しあわせ元気国体ボート成年男子部門出場

# ひと

## 伊藤 大生 さん

### 積み重ねた力で全国3位

**水** 上を風のように走り、イムを競うボート競技。その中の一つ、ダブルスカル1000級の埼玉県代表として10月に行われた「福井しあわせ元気国体」に出場し、みごと3位の座に輝いたのは早稲田大学漕艇部の伊藤大生さん（22歳・中央3丁目）です。笑顔に満ちたその表情は達成感であふれていました。

伊藤さんは高校入学後に友人に誘われボート部に入部。最初は試合に勝てず悔しい思いをしましたが、大会での敗北を糧に猛特訓。陸上でもトレーニングできる専用の器具を使うなど、練習に明け暮れました。そして2年生で全国3位になる快挙を成し遂げ、

その後も大舞台での経験を積んできました。大学では創部100年以上の歴史を持つ早稲田大学漕艇部に入部。4年生になると主将を務め、部をまとめる傍ら、個人としてもセレクションに積極的に参加し、県代表やU-23の日本代表の座をつかんできました。

国体はグループごとの1位勝ち抜き戦で、初日は台風の影響でボートに水が入ったり、風で揺れたりとアクシデントに見舞われましたが、無駄のないオールさばきと鍛え上げた筋力で荒れた波のなかでも着実にこぎ進め、勝利を収めました。その後も順調に勝ち進み、4県代表が競う決勝では3位に。国体の舞台で今まで積み重ねてきた成果を十分に発揮しました。

「これまでの集大成として全力を出し切ることができました」と話す伊藤さん。来年4月からは社会人となり、ここで7年間のボート生活に一旦の区切りをつけることになりましたが、「ボートを通じて多くのことを学ぶことができました」と、にっこり。挑戦を続けることで自分自身を大きく成長させた伊藤さん。また、活躍する姿が楽しみですね。

### 今月の河鍋暁斎記念美術館

# 天才絵師の作品 蔵にあり

— No.31 —



暁斎筆「狹客日本魂於迷府大猛勇闘」元治元年(1864) 山口板 大判錦絵三枚続

文化六年（1809）刊行の式亭三馬作『金神長五郎忠孝話』の一場面を、暁斎が描いた版画です。全身に文身を入れた「金神長五郎」が、地獄の相撲で「金剛尊」を投げ飛ばしています。それを見守る人々は、生前、雁

金五人男として名を馳せた悪党や、歌舞伎で天下を狙う大悪人として描かれる「大伴黒主」といったならず者のほか、「稲田姫」や瀧夜叉姫らの女傑もそろい、柱の向こうでは冥界の恐ろしい妖怪たちが集まって、どちらが勝つか固唾を飲んでいます。



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい 河鍋 暁斎 天保2年(1831) ~明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館 12月23日(日・祝)まで  
「暁斎が生きた時代と妖怪画」展 同時開催  
「暁斎プラスワンシリーズ28 初代彫蓮 暁斎に魅せられて「式」展

開館 = 午前10時～午後4時  
休館 = 木曜日・毎月26日～末日・年末年始  
ところ = 南町4-36-4  
入館料 = 一般600円 中学生～大学生500円  
小学生以下300円 (20人以上の団体は要予約)  
詳細 = 同館 ☎441-9780



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

